

19 世紀英国科学者によるグランドツアー

チャールズ・バベッジの第 2 回目のツアー

発表者：野村恒彦氏（異文化研究交流センター研究員）

日時：2012 年 1 月 31 日（火）15:00～17:00

場所：神戸大学大学院国際文化科学研究科 中会議室（A 棟 4 階 403）

入場：無料（申し込み不要）

概要

19 世紀英国の科学者であるチャールズ・バベッジは階差エンジンや解析エンジンの発想や製作を行ったことで良く知られている。バベッジはケンブリッジ大学時代に、大陸で発達していた解析学に強い関心を持ち、それらを英国に導入するため友人たちと「解析協会」(Analytical Society) を設立し、その中心的なメンバーとなった。

バベッジの同時代の英国貴族子弟たちは、教養を深めるため大陸旅行に熱心であったが、バベッジもその例外ではなかった。実際にバベッジは知られているだけで大陸旅行を 3 回行っている。その目的地はフランス、イタリア等で貴族子弟が行った大陸旅行と変わりが無いが、その目的は数学を含め大陸科学者との交流であった。

本発表では第 2 回目の大陸旅行について、具体的な行程やその目的、そしてその成果や影響について明らかにしたいと考えている。



会場への交通

阪神「御影」、阪急「六甲」、JR「六甲道」下車。
市バス 16 系統「六甲ケーブル下」行に乗車。
「神大国際文化学部前」下車。徒歩 3 分。

※阪急「六甲」より徒歩で 20 分ほどですが、急な坂道ですので、上記バスのご利用をお勧め致します。

お問い合わせ（神戸大学大学院国際文化科学研究科）

三浦伸夫研究室 E-Mail: miuranob@kobe-u.ac.jp